

Palestine in Crisis

— the Scope and Challenges of Anticolonial Solidarity

国際学術ワークショップ

パレスチナ危機

反植民地主義的な〈連帯〉の可能性と課題

パレスチナをめぐる現在の危機的状況は、植民地主義が依然として人類共通の脅威であり続けていることを物語っている。同時に、イスラエルによる不正と暴力を非難し、パレスチナ人の抵抗への反植民地主義的な連帯を呼びかける動きが世界各地で見られるのも、特徴的である。アイデンティティや言語の違いをこえた超地域的で普遍的な連帯へと人々を駆り立てるものは何か。何が植民地主義に抗する連帯を可能にし、困難にするのか。そもそも〈連帯〉とは何なのか。本ワークショップにおいては、韓国と日本でそれぞれ連帯運動を実践している「パレスチナ平和連帯」のトン・ヤピン氏および「関西ガザ緊急アクション」の役重善洋氏をゲストとして招聘し、連帯の理論と実践について現場の経験を活かした議論を行う。

▶ 日時

2024年

1月18日 木

16:00～18:00

▶ 場所

同志社大学
今出川校地
烏丸キャンパス
志高館SK110

▶ 主催

同志社大学グローバル地域文化学会
(「グローバル地域文化学部小規模講演会」枠)

▶ 共催

同志社大学人文科学研究所・第13部門研究班
(「移民・多文化共生・歴史認識の現在—植民地研究との融合に向けて」)／「間-帝国史」研究センター(同志社大学・中核的研究拠点)

▶ 言語

日本語

(韓日通訳あり)

▶ 登壇者プロフィール

トン・ヤピン (통아평)

イラク戦争をきっかけに立ち上げられた「팔레스타인평화연대」で2004年から中心的なメンバーとして活動して来た。

役重善洋

1990年代末よりパレスチナ連帯運動に参加。現在は「BDS Japan Bulletin」「関西ガザ緊急アクション」等のメンバーとして活動。研究者としてもパレスチナ問題に関わり、著書に『近代日本の植民地主義とジェンタイル・シオニズム』(2018年)等がある。

水谷智

同志社大学グローバル地域文化学部教授。2022年より「間-帝国史」研究センター所長を務め、<Transimperial History>の視点から反植民地主義的連帯に関する歴史研究に従事。

▶ 問い合わせ先

水谷智 (smizutan@mail.doshisha.ac.jp)

▶ プログラム

16:00～16:20

イントロダクション

水谷智

16:20～17:20

連帯運動の現場から

トン・ヤピン、役重善洋

17:20～18:00

討論

▶ 司会

加藤結子

(同志社大学グローバル地域文化学会員(学部在籍生))

▶ 日韓同時通訳

キム・ハンナ (김한나)

Center for
Transimperial
History

